

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-740	16-029	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>Frequency and risk factors of spontaneous hemorrhagic transformation following ischemic stroke on the initial brain CT or MRI: data from the China National Stroke Registry (CNSR). 脳 CT、MRI により診断した脳梗塞後の出血性変化の頻度と危険因子: the China National Stroke Registry (CNSR) のデータより</p>		
執筆者		
Chen G, Wang A, Zhao X, Wang C, Liu L, Zheng H, Wang Y, Cao Y, Wang Y		
掲載誌		
Neurol Res. 2016 Jun;38(6):538-44. doi: 10.1080/01616412.2016.1187864.		
キーワード		PMID
脳梗塞、脳梗塞後出血、心房細動、危険因子		27320249
要 旨		
目的:		
脳梗塞発症後、最初の神経学的画像検査までに治療を受けなかった患者の出血性変化の頻度およびその危険因子を調査することを目的とした。		
方法:		
中国の急性脳血管イベントに関する多施設共同前向き登録研究 The China National Stroke Registry のデータを用いた。2007年9月から2008年8月までに、32省と4市町村にある132の臨床施設において、①18歳以上、②イベント発生後14日以内に脳梗塞の臨床学的診断を受けるとともに、③頭部CT、脳MRIによる画像検査が行われ、④医師の判断または救急部への搬送により入院となり、⑤本人もしくは代理人によるインフォームドセントが可能であった患者12,415人(平均年齢:65.45±12.32歳、女性:61.68%)が対象となった。未治療の脳梗塞後出血は、脳梗塞を発症後14日以内のCTまたはMRIにより診断された。単変量解析により出血と関連する因子(p<0.2)を明らかにし、さらに多重ロジスティック回帰分析を用いて出血と危険因子の関連を評価した。		
結果:		
脳梗塞を発症した患者のうち、114例(0.92%)が脳梗塞後の自然出血と診断された。多変量解析では、女性[オッズ比(OR):2.29, 95%信頼区間(CI):1.52-3.44]、1日2杯以上の過剰飲酒[OR:2.17, 95%CI:1.20-3.94]、心房細動[OR:2.15, CI:1.26-3.66]、脳梗塞発症から画像検査までの期間の延長[1-7日 OR:1.64, CI:1.11-2.42、7-14日 OR:3.12, 95%CI:1.53-6.40]は、自然出血のリスク増加と関連していた。		
結論:		
未治療の脳梗塞後出血は、急性期(発症後14日以内)の脳梗塞患者の0.92%に発症しており、女性、過剰飲酒、心房細動、脳梗塞発症後画像検査までの期間の延長が危険因子であった。		